

# 広島大学

令和4年度 広島大学光り輝き入試

総合型選抜Ⅰ型

## 解答例又は出題の意図等

教育学部 第四類(生涯活動教育系)

音楽文化系コース

科目名:小論文

解答の公表に当たって、一義的な解答が示せない記述式の問題等については、「出題の意図又は複数の若しくは標準的な解答例等」を公表することとしています。

また、記述式の問題以外の問題についても、標準的な解答例として正答の一つを示している場合があります。

令和4年度 広島大学光り輝き入試  
総合型選抜（I型）  
教育学部  
第四類（生涯活動教育系） 音楽文化系コース  
小論文問題 解答例又は出題の意図等

---

出題の意図

【問題Ⅰ】

問題文全体では、1対1（マンツーマン）の授業に代わる、多様な学習形態の重要性について述べられている。問題Ⅰでは、1対1ではない授業の有用性を理解した上で、自分自身の大学での学び方について検討する力を問うている。

1. 指定された段落の要点を捉え、簡潔にまとめる力を問うている。

（要約例）1対1の授業に代わるものとしてアンサンブルに重点を置いた学習、グループ学習などさまざまな形態の授業がある。こうした共同的で経験的な学習では、学生がリーダーシップをとり、お互いに批評し、お互いの学習に責任をもつことができ、より高いレベルで授業に関与することができる。

2. 指定された段落を簡潔に要約した上で、その内容に関連させて音楽を広い視野で捉えながら、自分自身が大学でどのように学んでいきたいと考えるのかを主張する力を問うている。

（要約例）共同的で経験的な学習では、音楽とその他の分野の融合により、音楽の多様な役割を認識することができる。芸術はもはや孤立したものではなく、他分野と手を取り合っていくものとなっており、今後のキャリア形成においては、音楽活動の視覚的側面、技術的側面、およびその他の側面を認識することは有益なことである。

【問題Ⅱ】

これから音楽・音楽教育を専門に学ぶ者として、持続可能な社会に関わりながら音楽をいかに学ぶべきか、社会とどのように関わるべきかを、具体例を挙げながら、構築性をもって論じているかどうかを問うている。